

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105396
法人名	有限会社トータルケア果の実
事業所名	グループホームころ今出
所在地	松山市西垣生町1607-1
自己評価作成日	平成24年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当該ホームは大きな道路がないため車の通りも少なく静かな住宅地にあります。近くには鯉が生息する河川があり散歩がてら餌やりに出かけ自然や地域の人達と触れ合う機会づくりに努めています。定期的にボランティアの方を招き演芸やマジックショー等を開催し地域住民も招き交流の機会をつくるよう努めています。また、地域の季節行事や消防訓練などに参加し地域に根ざした運営が実現できるよう心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は地域との関わりに力を入れており、自治会に加入し運営推進会議には多くの地域住民の参加を得ている。地域の防災訓練にも参加し、災害時には事業所を避難場所として提供する等、相互の協力体制が構築されている。また、職員の教育にも力を入れており、国家資格の取得を目指している職員もいる。職員を交代で外部研修に参加させ、後日事業所内で伝達研修を行うことで、全職員のスキルアップが図られている。管理者と職員の熱い思いは利用者や家族、地域住民との信頼関係につながり、さらなる質の向上が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームころ今出
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏名	南 佳子
評価完了日	平成24年 1 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「信頼・和・安心」の運営理念を実践するため行動目標を掲げ毎日、唱和して職員全員が周知することで理念の共有に努めている。</p> <p>(外部評価) 利用者との信頼関係を大切にし、安心して穏やかな生活を支援するため「信頼・和・安心」を運営理念として掲げている。行動目標と共に掲示し、日々全職員で唱和し実践に向けて意識づけがされている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近隣の神社の祭りや幼稚園のクリスマス会やひな祭りに参加させて頂いたり地域の方々と一緒に消防署からの応急手当講習会や駐在所から交通事故防止や振り込め詐欺の注意点等をホームで開催して地域交流の機会をつくるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 管理者の交代を機に自治会長にあいさつに行ったことがきっかけとなり地域との繋がりができ、地域合同の防災訓練に利用者も参加した。また、幼稚園児や学生、婦人会のボランティアを受け入れたり、法人主催の「ころ祭り」に大勢の地域の方の参加を得る等、地域との繋がりが深まりつつある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 講師を招いて地域の方々に参加して頂き「認知症ケア」についての勉強会を開催したりボランティアなど積極的に受け入れて身近に理解していただけるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ご家族や外部の方々に、ホームの運営状況等を報告することで現状を知っていただき、また、ご出席者の方々の率直な意見やご要望を頂くことで日頃スタッフが気付きにくい点など発見できそれをサービスの質の向上に活かせるよう努めている。	
			(外部評価) 家族に運営推進会議に出席してもらえるようお願いしており、多くの参加が得られている。整体師による講演、実演や地域包括支援センター職員による介護保険制度の説明等、内容を工夫し地域の様々な立場の方の参加も得ている。出された意見や要望はサービス向上につなげるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 困難事例等を相談したり何かあれば介護保険課の担当者や包括センターと連携を図れるよう努めている。社協や包括センターなどの主催の研修会など積極的に参加するよう努めている。	
			(外部評価) 市の担当者や地域包括支援センター職員は、運営推進会議に出席し感染症や介護保険制度についての情報提供等を行っている。また、利用者の困難事例を相談したり、介護認定の更新時に利用者の様子を知らせる等、良好な関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 「身体拘束の廃止に理念及び方針」を事業所内に掲示し身体拘束についての研修も受講し身体拘束廃止委員会を設置するなど職員の意識向上に努めている。	
			(外部評価) 玄関にはセンサーが設置されており施錠はしていない。研修を行ない身体拘束をしないケアを心がけている。止むを得ず行う場合は家族に同意をもらい、身体拘束廃止委員会を中心に全員で検討し、短期間で解除できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修等により職員への意識つけとマニュアルをいつでも回覧できるように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修等により制度の理解と活用方法を共有理解できるよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前に必ず見学して頂き、ご利用者やご家族に十分な説明を行い、意向や思い等を把握・確認し納得された上で入居契約の締結を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見・要望用紙を用意しご利用者やご家族の声を積極的に集めるほか、各ご利用者へは担当制をとりより細かに状況を把握できるようできる限り個々のご利用者の思いを現場に反映できるよう努めている。家族会を定期的開催しご家族同士で交流や話合う機会をつくり個別の要望などを求めて運営に反映できるよう努めている。 (外部評価) 利用者ごとの担当者が毎月「ころ今便り」を送付し、事業所での様子を家族に知らせている。何でも言いやすい信頼関係が築かれており、運営推進会議や家族会、面会時やアンケートによって意見や要望を収集している。出された意見は真摯に受け止め、運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月、ミーティングを開いている。議題等を職員意見箱に意見を出しやすいよう無記名で入れてもらい運営に関する意見を議題に取り入れている。また、職員のスキルアップのため二ヶ月に一回講師を招いて勉強会を開いている。専門職としての知識を得ることでサービスの質の向上とやりがいを感じることができるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 職員用の意見箱も置かれているが管理者とは何でも言いやすい関係が築かれており、日々意見を交わしながら運営に取り入れている。管理者から代表者へは状況報告や要望等を行っている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 適正に考課しやりがいのある職場環境を整えるよう努力している。現状では、外部研修を研修ごとに全員参加することが困難なため研修を受講した職員が他の職員に伝達研修を開き互いに向上できるよう努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 外部研修のほか、二ヶ月に一回講師を招いて勉強会を開いている。外部研修にも参加できる機会の確保に努めている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 地域密着型サービス協会や包括センターの研修や事業所連絡会などに参加し情報交換を行っている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前には、事前訪問や見学等でご本人の心身の状態や生活歴や家族背景の把握に努め、ご本人の意向や今後どのような生活を送りたいかできる限りご本人の意向を踏まえたケアの実践に努めるよう職員間でも情報共有を図り同じ思いで接することでご本人との信頼構築に努力している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) キーパーソン以外のご家族にも要望や思いが違うことがあるが、できるだけそれぞれの意向を確認しながら一緒に考えていけるような雰囲気づくりに努め意見や要望等が言い易い関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、ご本人や家族の現況を確認し、どのようなことが困っているのか不安に思うことがあるのかを傾聴しどのような支援を必要とし求めているのかを見極めホームとしてできる限りの柔軟に対応できるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 法人で掲げている理念を職員全員が共通理解し実践することで人生の先輩であるご利用者に対する尊敬の気持ちを忘れず日々接することでともに同じ思いで支え合う関係を構築できるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の面会時には、ご本人の現況報告は必ず行い情報共有に努めている。毎月便りを発行しご本人の生活状況を分かりやすく伝える工夫や手紙や電話をできるだけご本人ができる支援に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前に住んでいた場所にドライブや散歩に行ったり以前から買い物に行っていたスーパーなどに一緒に行き馴染みの関係を続けられるようにしている。社会参加の場所として選挙の投票などできるよう支援し手紙の代筆、電話の取次ぎなど職員以外との交流が図れるよう努めている。 (外部評価) 今までの生活の延長線上であることを意識し、以前住んでいた場所の近くにドライブに行ったり、買物に行ったりしている。檀家であったお寺の方や友人が訪ねて来ることもある。また、他の入居者の家族の方と顔見知りになり会話する等、新たな馴染みの関係もできている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ご利用者同士の共通の話題の提供や協働作業の工夫や一緒にできるレクリエーションの提供など日々の生活の中で関わりが持てるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスの利用が終了された方にも何かあればいつでも相談に来てほしいと伝えている。入院加療が必要となり終了した方などお見舞いに行くなどできる限り今までの繋がりが途切れないよう努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活での関わりからご本人の状態を理解し声かけや表情や態度で変化を把握し、日常の会話の中で希望や意向を把握していくよう努めている。コミュニケーションの困難な利用者は、いろいろなツールを活用して推察したり担当職員からの情報やご家族との情報交換・相談等を行いご本人の意向に沿えるよう努めている。 (外部評価) 入居時にフェイスシートを作成する際に、利用者ご家族の思いや意向を把握している。コミュニケーションが困難な利用者については家族からの情報や利用者の表情や行動により汲み取っている。得た情報は記録に残し、職員間で検討し次のステップへ繋げるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前には、ご本人、ご家族、関係機関からできる限りの情報を収集し入居後も同様にご利用者との会話の中から把握できることやご家族や知人の面会時にお話を伺い把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ご利用者個々の心身の状態と日々の生活リズムの把握に努め現状の変化を見逃さないよう介護記録や朝、夕の申し送りや各担当者からの報告や週に1回介護計画書を評価しミーティング時検討し職員全員が現況を把握し柔軟な対応ができるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画書の作成、更新時、状態変化時には、ご本人への希望確認をするとともにご家族の意向や希望の確認、主治医、リハビリの先生などのアドバイスを頂き計画に反映し、ケアカンファレンスを開催して職員等の意見などを取り入れ課題の共通認識を持つことで現況に即した介護計画を作成することに努めている。	
			(外部評価) 利用者の思いや家族の意向を踏まえて関係者と話し合い、利用者主体の暮らしを反映した介護計画を作成している。毎週ケアプラン実施確認表をチェックし、3か月に1回見直しを行っている。状態に変化があった場合はその都度見直し、家族に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日常の様子やケアの実践、経過や結果、その日の気付き等を個別ファイルやご利用者の一日の様子が確認できる用紙に記入し情報共有やケアの実践が計画通り行っているか援助内容の見直しが必要かが判断できることで実践への反映に活かせるよう努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個々のご本人や家族の希望やその日の体調を考慮しご利用者の日常ペースとニーズに合わせて食事時間の変更や内容などその人に合った対応を可能な限り柔軟なサービス提供できるよう取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 災害時の安全確保のため、消防署指導の下ご利用者、ご家族、地域住民と避難訓練を行ったり応急手当の講習会を開くなど地域と一緒に安全確保に努めるほか地域の季節行事への参加、ホームでの行事に参加頂くことで交流の機会をつくり地域との繋がりを保てるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) ご本人・ご家族が希望する医療機関での受診ができる 体制をとっている。その他、状況によって専門医での 受診は、ご家族の都合もあり柔軟に職員が通院介助を 支援している。</p> <p>(外部評価) 利用者と家族の希望により、事業所の協力医がかかり つけ医となっており、定期的に訪問診療を受けてい る。専門医の受診には職員が付き添い、普段の様子や 変化を伝えている。受診結果を記録し家族や職員に報 告し全員で共有している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 訪問看護の訪問時にはご利用者の体調変化や内服薬の 変更や受診時の結果、日常の様子など情報の共有を図 り、医療面からの指導、助言を頂き日々の健康管理や 医療との連携がスムーズに行えるよう支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時にはご本人への介護サマリーなどご家族の同意 のもと医療関係に提供している。入院中は定期的に病 院へ訪問しご本人の状態の確認を行いご家族や医療機 関との情報交換に努め退院後ホームでの生活が不安な く戻れるよう連携を図るよう努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居時にご本人・ご家族と重度化した場合やターミナ ルケアのあり方について説明している。実際の状態に よって主治医やご家族とカンファレンスを開いてご本 人やご家族の意向を確認して方針を共有できるよう支 援している。</p> <p>(外部評価) 重度化した場合の指針は整備され、入居時に説明して いる。24時間医療連携体制は整っており、職員の研 修も行っているが看取りの経験はない。主治医を中心 に関係者で話し合いを行い、利用者や家族が安心して 生活ができるよう取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急や事故発生時の日中・夜間の対応体制・対応マニュアルを掲示している。緊急連絡網を作成し緊急時に備えている。消防署を招いて応急手当の勉強会を開いたり研修を受けたりすることで実際に備えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的な避難訓練と消防署員からの消火器の使用方法・通報訓練・避難誘導について指導を受けている。消防計画書・防災計画書を作成し非常備蓄品など準備している。地域の防災訓練の参加や地域住民との防災訓練も実施している。 (外部評価) 年2回火災を想定した避難訓練を行っている。地域住民と合同の防災訓練を行い避難場所や避難経路の確認をし消火器の使い方も練習している。食糧や水、カイロ等の備蓄も揃えている。自家発電装置があり、事業所の2階を避難場所として提供できることを伝え、地域との協力体制が構築できるよう努めている。	2階に居室があることや、年々車いすの利用者が増えているという状況から、夜間は近隣の方の協力がなければ避難誘導は難しいと思われる。実践的な訓練を含めてさらなる協力体制の充実に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 基本理念と行動目標に掲げているように職員全員が、毎朝、唱和し共有理解に努めている。また、認知症の理解やコミュニケーションについて研修等で理解を深めて実践に取り組んでいる。 (外部評価) 接遇についての研修を行い、日々実践に努めている。利用者の気持ちを考え、さりげない言葉遣いや自己決定しやすい声かけを心がけている。リビング兼食堂の前にトイレがあり、職員はプライバシーに十分に配慮しながら対応を検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご本人の希望や意向を表せない方にはできる限り日常の表情や動作の中から推察したり選択できるよう筆記等ツールを用いてご本人の希望に沿えるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ホームの一日の流れはあるが、個々の希望やその日の体調を考慮しご利用者のペースとニーズに合わせてサービスが提供できるよう日々取り組んでいる。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 生活着などご本人が選択できる方以外は、一緒に選んだりご本人の趣向を理解するよう努めている。訪問理容を利用しカットなどご本人へ好きな髪形などを決めて頂いている。また、男性は髭剃りなど介助の必要な方は毎日援助している。時々希望を聞いて女性にはマニキュアなどを行うこともある。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 通常は、献立に沿ったメニューとなっているが、季節行事や誕生日の方のお好みをお聞きしてご本人の好物をメインに作っている。食の楽しみを持って頂くため季節に応じた旬のものをメニューに取り入れるよう心かけている。簡単な調理の下ごしらえや食器拭きなどを手伝っていただいている。 (外部評価) 食材は社長がまとめて購入したものと近隣からの頂き物を利用し、臨機応変にメニューを考え調理している。誕生日は希望を聞き好みの献立にしたり、状態によってミキサー食や刻み食を用意して個別に対応している。職員も一緒に食べながら会話を楽しみ、温かい雰囲気ですべてができています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々に合わせ食事形態の工夫や水分摂取の困難な方はトロミの活用など食事量と水分摂取の確保に努めている。自力摂取の困難な方は介助・見守りを行い支援している。主治医や訪問看護にも訪問時に確認して頂き指導の下健康管理に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、うがい歯磨き、義歯の洗浄の声かけ、介助を行っている。義歯の方はポリデント洗浄を定期的に行い、うがいのコップ等は定期的に漂白洗浄し清潔に努めている。また、口腔内の状態により必要に応じて訪問歯科診療の治療を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を活用し個々の排泄パターンに合わせてトイレでの排泄ができるよう声かけ誘導や介助を行っている。トイレでの排泄がスムーズにできるよう手すりを活用しての毎日の立ち上がり運動を実施している。トイレ誘導時はご本人の自尊心を尊重するよう配慮に心かけている。	
			(外部評価) 排泄チェック表を使用して自尊心を傷つけないようにさりげなく声かけしトイレで排泄ができている。夜間については、利用者一人ひとりの状態に応じて紙パンツやパッド、オムツを使用したり、ポータブルトイレを設置する等、対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) スムーズな排便を促すため体操・個別運動・散歩など適度に身体を動かしていただけるよう取り組んでいる。水分の摂取や乳製品・繊維の多い食材を摂取できるよう心かけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴は原則一日おきであるがご利用者の希望や体調を考慮し柔軟に対応している。入浴が苦手なご利用者は声かけの方法や時間帯などの工夫をし入浴が負担とならないよう支援している。	
			(外部評価) 寒い時期は毎日午後に入浴の順番を変える等、利用者には不公平が無いように入浴支援をしており、希望によってその都度、柔軟に対応している。入浴時はリラックスし会話も弾み、拒む人もなく楽しく入浴できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中はソファでテレビを観たり和室で休まれたり個々のペースで過ごされている。雑誌や新聞を定期的に購読している。就寝時間も個々に合わせて昼夜逆転ならない程度に居室でテレビを観て頂いたり不穏時は落ち着いて休まれる状態になるまで職員が話し相手になり落ちつかれて入眠できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルの作成や処方箋を個別ファイルに閉じ職員が内容を把握できるようにしている。薬の変更時には、連絡ノートと医療記録に記入し申し送りの徹底に努めている。高齢者の薬の作用についてなど研修受講し正しい知識の習得に努めている。状態観察と経過観察は必ず記録し主治医へ報告、相談をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴を勘案して個々にあった作業の手伝いをお願いすることで意欲向上に繋がるよう支援している。カラオケや工作、編み物や縫い物、塗り絵、ゲームなど参加しやすいレクリエーションを多く取り入れ楽しみや気分転換が図れるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常は近くの河川に生息している鯉に餌やりという目的を持って散歩に出たり、自宅を見に行ったり近所の顔見知りや会いに出かけたりしている。地域の季節行事や初詣、いちご狩りやぶどう狩りなど遠方に外出するときはご参加して頂けるご家族も一緒に出かけるよう支援している。 (外部評価) 車いすを使用する利用者が増えており、遠出が困難になりつつあるが、家族の協力を得て苺狩り等に外出している。気候の良い時期は、近くの川へ鯉の餌をやりに行ったり、地域の行事に参加する等、外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 毎週パン屋さんが訪問されその時に普段なかなか買い物に出かけられないご利用者も自身で選び購入する楽しみを持って頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族へご本人自ら電話したり手紙を書いたりできない方には定期報告など事業所から電話連絡や郵便物を郵送するときにご本人とやり取りする機会をつくっている。ご家族から送られた手紙の代読や代筆などできるだけ交流の機会をつくるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 空間づくりにはご利用者の意見を取り入れ季節に応じた飾りつけなど一緒に行って季節の移り変わりを意識できるよう心がけている。リビングの壁面に掲示するカレンダーも毎月、季節に応じてご利用者と作成している。浴室など入り口に暖簾を利用して開閉時に見えないよう配慮している。</p> <p>(外部評価) バリアフリーの玄関には、いすが置かれ靴の着脱を楽にできるようにしている。リビングの大きな窓からは日差しがよく入り、必要に応じてカーテンや障子で調節している。リビングで談笑したり、テレビを観る等、思い思いに過ごすことができています。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) フロアにソファを用意し食後やテレビを観るなどくつろいでいただける場所となっている。和室部分があり和室へ上がる高さが座れる高さとなっているため腰掛けて休まれる姿が見られる。また、和室で横になって休むこともある。ウッドデッキでタバコを吸ったり外気浴を楽しまれたりされる。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室にはご利用者の思い出の品やご家族の写真、毎年、誕生日にご利用者へ贈る写真つきの色紙などを飾ったりしている。テレビや使い慣れた家具を設置したり仏壇を持ち込むご利用者もおりが本人の過ごしやすい環境づくりに努めている。</p> <p>(外部評価) クローゼットの中にダンボールを重ね棚をつくり、利用者が衣類を整理し使いやすいよう工夫している部屋もある。各部屋に畳が一畳おいてあり、利用者の希望によって自由に使用している。天窓から明るい光が差し込み、出窓には観葉植物や飾り等を置き、落ち着いた居室づくりがされている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 各居室の入り口にはご本人の写真入のネームプレートを設置しご本人の居室が分かりやすいよう工夫している。廊下やトイレ等には手すりを設置し歩行時の安全を図っている。トイレや洗面所・浴室などわかりやすいよう大きな案内板を設置している。洗面所は車椅子での利用が可能よう配慮した設計となっている。</p>	